



身延別院本堂で行われた法要

願満

復刊第十五号

2012年9月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766



七回忌と取り越し四十三回忌の法要厳かに

身延別院先代の藤井日光上人(妙道院日光上人)の七回忌と、先々代の藤井日静上人(一乗院日静上人)の取り越し四十三回忌の法要が八月二十四日、別院本堂で厳かに営われました。

日光上人は明治四十二年二月、山梨県中巨摩郡の泉能寺で生まれました。大正十一年二月、十四歳のときに父教仁(日静上人)を師として得度しました。昭和十二年三月、二十九歳で立正大学文学部仏教学科を卒業。昭和十七年四月、三十四歳で京都満願寺の住職になりました。

戦後の昭和三十四年二月、五十一歳で身延別院の住職になりました。この間、身延八十六世になられた日静上人に随行してハワイ巡教に臨むなど精力的に活躍を続けました。同四十八年十一月、六十五歳で能登滝谷本山妙成寺貫主に。平成二年四月、八十二歳で身延山久遠寺総務に就任。同十一年五月には身延山久遠寺九十一世として入山されました。同十八年九月二十一日、久遠寺水鳴楼で遷化されました。九十八歳でした。

日静上人は明治十二年十月、東京・神田錦町の薪炭問屋の三男として生まれました。明治三十八年、二十七歳で山梨県中巨摩郡の妙太寺、三十一歳で泉能寺の住職になりました。大正十二年、四十五歳で京都満願寺の住職、そして昭和十七年四月、六十四歳で身延別院の主管となりました。戦後の昭和二十一年八月、身延山総務に就任。同三十四年七月、八十一歳で身延山久遠寺八十六世として入山されました。同四十六年十二月二十七日、水鳴楼で遷化されました。九十二歳でした。

法要は午後三時から、千葉県興津妙覚寺貫首の堀水日行猥下を大導師に営まれ、法要終了後は帝国ホテルに会場を移し、「両上人を偲ぶ会」が行われました。



「生身」のお祖師様をまつる法華寺の祖師堂

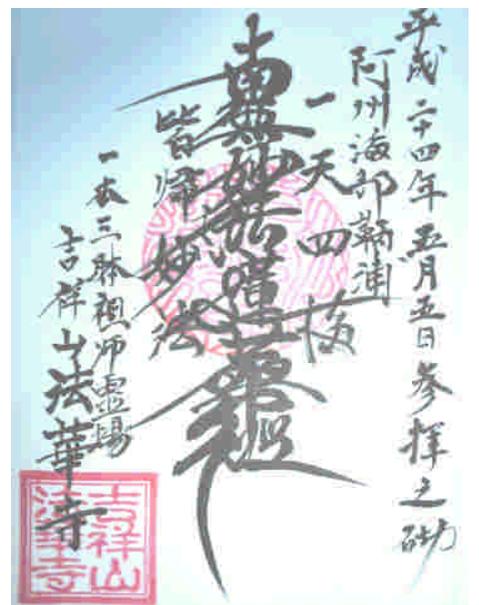
御首題を いただく旅

第十五回 徳島県海陽町・法華寺

今年の五月の大型連休のおり、四国の日蓮宗寺院を参拝してきました。四国はお遍路さん・八十八か所霊場で知られる土地柄だけに、真言宗のお寺がたいへん多いところですが、それに比べると、日蓮宗のお寺は四国全体でも七十七か寺しかありません(ちなみに東京都内は三百六十七か寺、日蓮聖人の生誕地・千葉県は五百五十四か寺)。

「願満」の読者の皆さんに今回ご紹介するのは、徳島県海陽町にある法華寺というお寺です。徳島県といっても、高知県との県境に近い地域で、最寄りのJR海部(かいふ)駅から徒歩十五分。鞆浦(ともうら)と呼ばれる漁師町の一番奥まった高台にお寺はありました。私が寺務所を訪ねていくと、ご住職が応対してくださり、法華寺に奉安されている日蓮聖人像について熱心に語ってくれました。

それによると、日蓮聖人が伊豆に流罪となっていたとき、海中から光を放つ梅の霊木を感じ得され、お弟子さんにより、その霊木から三昧の祖師像が造られたのだそうです。そのうちの一昧が阿波八万村(現在の徳島市)にまつられ、法華寺となりました。しかし天正五年(一五七七年)の戦火でお堂は焼失、祖師像は川に投げ入れられました。その後、天正十六年に数十キロも離れた鞆浦の海中から祖師像が発見され、法華寺は文禄元年(一五九



二年)に現在地に遷されたのだそうです。古くから「海部のおそつま」「鞆の日蓮さん」などと親しまれ、現在も日蓮聖人の御霊が宿る「生身」のお像として人々に信仰されているということです。

本当に熱く語るご住職で、私は時間がたつのも忘れて聞き入ってしまいました。そのうちにびっくりするようなことをご住職が話したのです。「今は徳島県の小さな町に住んでいますが、若いころは東京で過ごしたこともありましたよ。小伝馬町に身延別院というお寺があつて、そこに住みながら学問に励んだのです」と。私(平山)は自分が身延別院に通っていることなど、ひと言も話していません。それなのに「身延別院」の名称がご住職の口から語られたので、本当に驚いてしまいました。目に見えないつながりというものを、これほど感じたことはありませんでした。

(平山徹・新聞記者)

両上人を偲ぶ会に百六十人



「偲ぶ会」出席の両上人方。挨拶は井上総務猥下(上)

会場に設置された両上人の曼荼羅と写真(下右)

各テーブルに挨拶する住職と副住職(下左)



身延別院本堂で八月二十四日に営まれた身延別院先代の藤井日光上人(妙道院日光上人)の七回忌と、先々代の藤井日静上人(一乗院日静上人)の取り越し四十三回忌の法要には、身延山久遠寺総務の井上日修猥下をはじめ、たくさんの来賓の皆さんが参列してくださいました。

また檀信徒として、鈴木章夫さん、戸張法行さん、沼田有市さん、小松山和子さん、藤野孚正さん、青山芳江さん、今井泰之さんら総代・世話人の皆さんのほか、上遠野美津子さん、佐藤美保子さん、今井善子さんらが出席しました。

法要はたいへん厳かな雰囲気の中で執り行われました。終了後、主催者として当院住職が謝辞を述べました。この後、法要の参列者は、当院から、「両上人を偲ぶ会」会場のある帝国ホテルへ移動しました。

「両上人を偲ぶ会」は僧侶約百六十人が集い、午後五時から始まりました。お題目を三唱した後、身延山総務の井上猥下、法要で大導師を務めた興津妙覚寺貫首堀水日行猥下、外山寛穂江信會会長から、両上人を偲ぶお話をいただき、東京東部宗務所長の田村宏順僧正の音頭で献杯が行われました。

その後小林順光・東部選出宗会議員をはじめ、駒野教源・日蓮宗宗会議長、阿部是秀師などの皆さまから二人の上人を偲ぶ言葉の数々をいただきました。その後、両上人の写真と年譜を載せた動画を上映、最後に、当院総代の鈴木章夫さんが謝辞を述べ、続いて当院住職がお礼の言葉を述べて、「偲ぶ会」は終了となりました。

先代、先々代 懐かしのアルバム

「偲ぶ会」では、両上人の歩みをまとめたスライドが映し出されました。宗門の繁栄に尽力された二人の姿を見て、会場の出席者のなかには、当時を懐かしく思い起こし、語り合う人も多かったようです。会場で上映されたスライドの一部をここに紹介しましょう。



世界連邦大会出席、北米、カナダ親教歓送会。別院地下ホール。前列中央が日静上人、その右隣が日光上人(昭和40年)



ハワイ真珠湾追悼会。左端日光上人、右端日静上人(昭和38年12月)



別院寒修行。前から二人目が日静上人(右上、昭和32年1月)

別院お会式(右下、昭和52年11月)

富士山経ヶ岳へ宝塔建立(左、昭和58年7月20日)



富士山経ヶ岳を団参



霧に包まれる中、厳かに法要が営まれました

富士山経ヶ岳大祭が七月二日に営まれ、身延別院から藤井教瑞師、河野信成師と檀信徒さんら計五人が団参に訪れました。

日蓮聖人が、文永六年(一二六九年)の夏、富

士山麓に住む塩谷平内左衛門の案内により、富士山の中腹五合五勺の地を訪れ、法華経による天下太平・国土安穩を願い、みずから書写された法華経を埋経されました。この地が経ヶ岳です。「宗祖埋経霊場」とも呼ばれています。

それ以降、塩谷家がこの地を守ってきましたが、廃仏毀釈などを経て荒廃寸前となりました。昭和二十七年(一九五二年)、身延別院の初代住職、藤井日静上人(後の身延山八十六世)がこの地を訪れ、富士山麓鉄道(現在の富士急行)社長、堀内一雄氏とともに霊跡の復興計画に着手、翌年には常唱殿を建立しました。

以後、経ヶ岳は身延別院二世、藤井日光上人(後の身延山九十一世)、身延別院三世(現



富士山経ヶ岳を参拝した檀信徒の皆さん

住職)に受け継がれ、代々守られてきました。平成十七年(二〇〇五年)にその管理・運営を身延山久遠寺に受け渡しました。現在では久遠寺の直轄地となっています。

あいにくの曇り空でしたが、身延山より布教部長、布教部の各上人、僧道実修生、各地から有縁の各上人、檀信徒さんらがたくさん集まり、常唱殿でお自我偈やお題目を唱えました。

本堂で施餓鬼大法要

身延別院の孟蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で厳かに営まれました。お盆(孟蘭盆会)の送り火の日に行っている恒例の行事です。

今年には檀信徒六十余人が本堂に集い、全員で提婆達多品、お自我偈、お題目などを唱え、ご先祖をはじめ、有無両縁の諸精霊を供養しました。

さまざまな願い短冊に

身延別院で七月七日、七夕祈願を行いました。地域の皆さんにお寺に親しんでもらおうと、平成十八年(二〇〇六年)から始めた行事です。今年も七月四日に本堂前に笹竹が設置されました。さまざまな願いの書かれた短冊がたくさんつるされました。

鰻供養放生会

鰻供養放生会が六月二日、本堂で厳修されました。放生会は、日本橋地区のうなぎの蒲焼の老舗・名店で作る日本橋蒲焼商組合が施主になり、鰻や淡水魚に対し、日頃の感謝、供養の意を込めて実施している法要です。当院先代の日静上人が昭和二十六年六月三日に営んだのが始まりです。

組合の皆さんは本堂で法要を行った後、境内にある「鰻塚」の前で焼香をしました。鰻塚は、組合傘下の十八の店が昭和五十八年四月三日に建立した供養塔です。焼香の後、組合の皆さんは日本橋川まで移動し、鰻を放流しました。



副住職らが見守る中、焼香をする組合の皆さん

今年中止 お稚児さん行列

身延別院では、毎年十一月三日に行われるお会式で、お稚児さん行列を行っています。今年も十思スクエアが工事中で、コミュニケーションが使えず、お稚児さんの支度場所が確保できません。このため、お稚児さんの募集は行わないことにしました。

また、お会式で本堂の内外に飾り付ける花の製作を十月二十、二十一日に行います。お手伝いいただける方、よろしくお願ひします。

副住職が被災地に義援金届ける

当院の藤井教祥副住職が七月二十四日から二十六日までの間、若手県陸前高田市と宮城県女川町を訪れ、仮設住宅の自治会などに義援金を手渡しました。

陸前高田市には、当院ともゆかりの深い岩手県遠野市法華寺の阿部是秀上人が主宰している法華の道場(高田道場)がありました。しかし、震災で全て流されてしまい、現在は民家を借りて運営しています。副住職はこの道場を拠点として陸前高田市内をまわりました。

今回は、同市の広田町公民館再建費として広田町自治会長に十万円、竹駒保育園に十万円を手渡しました。当院がこれまでに届けた義援金はこれで約六十万円になりました。

当院では現在も義援金を募っています。これまでもたくさんの義援金をいただいております。

すが、被災地支援活動は、これからも続けていきますので、ご協力をお願いします。これまで寄付して下さった皆様、殊に、毎回多額の寄付をしてくださる高円寺の〇様、ありがとうございます。

今後の予定

九月一日(土) 願満祖師終日お開帳

大黒天祭礼 午後二時より

十九日(水) 二十五日(火) 秋季彼岸会

二十二日(土) 総武霊園ならびに永代供養墓

彼岸法要

二十五日(火) 彼岸会施餓鬼法要

午後一時より

十月一日(月) 願満祖師終日お開帳

十九日(金)、二十日(土)

青年会べつたら市出店

二十日(土)、二十一日(日)

お会式花づくり

十一月一日(木) 願満祖師終日お開帳

三日(土) 宗祖報恩会式

編集後記

今回は、八月二十四日に営まれた、当院先代妙道院日光上人の七回忌法要と当院先々代住職一乘院日静上人の取り越し四十三回忌法要を収録するため発行が遅れました。これからも充実した紙面となるよう努めていきます。(平山)

身延別院の敷地は牢屋跡！ 中央区教委が発掘調査

身延別院が現在建っている場所は、江戸時代の三百年間、小伝馬町牢屋が置かれていた場所です。明治時代となってからも、牢屋跡にはだれも住む者もなく放置されてきました。たくさんの亡霊を法華経でなくさめようと、明治十五年に祖師堂を建立したのが当院の始まりです。その伝馬町牢屋跡の発掘調査が行われており、八月十、十一の両日、見学会が開かれました。

中央区教育委員会の発表資料によると、正式な遺跡名は「伝馬町牢屋敷跡遺跡」。牢屋敷は、徳川家康の入府当初の天正十八、十九年頃は今の日本銀行あたりに置かれていました。伝馬町に移転したのは慶長十八年(一六一八年)頃からといわ



伝馬町牢屋敷跡遺跡の見学会に訪れた人々。身延別院本堂の屋根も見える



上水道の跡が次々に発見され、発掘担当者を驚かせた。四角い箱は上水枡

れ、その後は江戸時代を通して牢屋敷であった土地です。この間、実に十六回もの火災に遭つたとされています。

明治維新を迎え、東京府の所管となり、明治八年(一八七五年)五月、囚人を市ヶ谷監獄に移し、牢屋敷は取り壊されました。明治四十年(一九〇七年)までには身延別院のほか、十思小学校用地になりました。

遺跡の場所は、大正十二年(一九二三年)の関東大震災を経て、現在のかたちの十思小学校になりました。遺跡の発掘で新たにわかったのは、縦横に走る上水道と石垣でした。特に上水道は次々に発見され、少なくとも九筋

の上水道が確認されました。外部とほぼ遮断された牢屋敷内では水の確保がとても重要であることを物語っています。また、土中から姿を現した石垣は、直接的に牢屋敷内の区割りを示す貴重な発見になりそうです。

江戸時代の牢屋敷が発掘されるのは初の事例で、全国的に見ても、こうした大規模な牢屋敷の発掘調査は例がないということです。

なお、伝馬町牢屋に入れられた人には、平賀源内(一七二八〜一七七九)、鼠小僧次郎吉(一七九七〜一八三二)、吉田松陰(一八三〇〜一八五九)、佐久間象山(一八一〜一八六四)といったそうそうたる顔ぶれが知られています。



発掘現場をのぞき込む人たち



出土物を熱心に見る人たち

「檀信徒さん登場」休みました